

本質の祝福 (マルコ 10:1-12)

パリサイ人たちが離婚問題を持ち出して、イエス様に質問しました。「離婚してもよろしいでしょうか」。イエス様は「離婚などしてはいけません」と返事をされることを予想してそのように質問し、その後、モーセの律法を取り上げてイエス様を困らせようという思いで、イエス様を試そうという計算で質問しました。しかし、イエス様は先手を打って、イエス様の方から「モーセはそれに対してどのように命じたのか」と聞かれました。そこでチャンスが来たので、「モーセは離婚証書を渡して離婚することは許される、可能だと言ったんじゃないですか」と言いました。そのときにイエス様が、「そのみことばというのは、あなたがたが心がかたくなで、つまり、あなたがたは罪にまみれている罪人なので、そのような言葉が与えられたものだ」とおっしゃったのです。パリサイ人は神のみことばを取り上げてイエス様を試そうとしました。神のみことばはイエス様を信じてもらうために与えられたものです。なのに、そのみことばをもってイエス様を試そうと、困らせようとして、最終的にはイエス様に敵対することになってしまいました。なぜ神のみことばなのに同じみことばをもってそういう結果になってしまうのでしょうか。それはパリサイ人たちは、自分が罪人なんだ、キリストによる救いが必要な罪人なんだということをはなから、根っこから認めようとしていません。なので、その状態で神のみことばを見ますと、残念ながらそういう結果になってしまいます。罪の本性は何かと言いますと、自分はキリストによる救いが必要な罪人だということを決して認めないことです。それが罪の本性です。そして、その罪のままではみことばを理解することは不可能です。そして、みことばを見れば見るほど、守れば守るほどイエス様を遠ざけて、結果的にイエス様に敵対することになってしまいます。今のお話を理解できたでしょうか。自分が罪人だということを認めない限りは、神のみことばを見ることは逆にダメージになるということです。イエス様から遠ざかってしまう。イエス様と近づいて、イエス様を信じてもらうために許されているみことばなのに、逆効果になってしまうということを、私たちは今日の聖書を通して確認することができます。反対に、自分は本当に救いが必要な罪人だということを心から認める人はどうなるのでしょうか。正反対になるのではないのでしょうか。そのことを今日の聖書を通して確認して行きましょう。

1. 「自分は罪人」と中心から認めると、御言葉の本質が見えて、Only キリストになる。

第一に、自分は罪人だということを心の中心から認める人は、みことばの本質が見えてきて、結果的に Only キリストになります。

1) 離婚証書の本質

イエス様が離婚証書に対してお話をされました。その離婚証書が紹介されている神のみことばの本質は何でしょうか。人間というのは、自分の欲に従っていくらでも妻を切り捨てることができる、そういう存在であるということの裏返しなのです。だから、せめてもの安全装置装置、ブレーキの装置を設けようという意味で離婚証書という言葉が登場するわけです。つまり、離婚証書という言葉の裏は、あなたがたは安全装置をかけなければいけない程、根本的に腐ってる罪人なんだというメッセージなのです。それがみことばの本質です。なので、離婚証書を渡して離婚することが可能になるためのみことばではなくて、あなたがたは罪人なんだよ。だから、あなたがたは絶対キリストでなければ希望のない存在です、ということを表す言葉なのです。これがみことばの本質です。

2) レビ記 24:19-20 の本質

聖書のレビ記 24:19-20 を見ますと、「もし人がその隣人に傷を負わせるなら、その人は自分がしたと同じようにされなければならない。骨折には骨折。目には目。歯には歯。人に傷を負わせたように人は自分もそうされなければならない」とあります。目には目、歯には歯、このみことばの本質はなんでしょうか。人間というのはどれほど悪な存在なのかということ、目がやられた場合に、相手の目にダメージを与えることでは終わらないのです。目がやられた場合には、目、歯、鼻、体全体をいじめないとけないものなのです。なので、せめてもの安全装置のために目がやられたときには、目だけにとどまってそれ以上行かないようにという意味がそこにはあるわけです。つまり、目には目、歯には歯、骨折には骨折というみことばの本質は、あなたがたはやられたその分に留まるような善人ではない。それ以上に走

ってしまう罪深い者なのだという意味がそこには込められているわけです。だから、裏返しますと、あなたがたは、キリストでなければ絶対希望のない罪人なんだということが、その目には目、歯に歯というみことばの本質なのです。なのに自分が罪人だということを認めない限りは、それをパリサイ人のように、ユダヤ人のように受け止めて、みことばをそういう意味で守ろうとするわけです。そうすると、結果的には、イエス様に敵対する方向に流れるしかありません。その裏には悪魔サタンの喜びが、しわざがしっかりと引かれているものになってしまいます。悪いことをしたから罪人、そういうことがあまりないので罪人の意識がない。罪というものはそういう次元の話ではありません。私たちが考えているように、悪いこと、良いことと関係なく、生まれながら神の御怒りを受けるしかない存在として生まれます。人間はそういうものなのです。なすこと、考えることすべてが悪に満ちているものとローマの手紙には明言されています。それを認めるか認めないかなのです。自分はある人よりそんなにひどいこととしてないし、犯罪を犯したこともないし、そんな図々しいことなどしたことがないのでそんな罪深いと言えるものかと思っている限りは、みことばを見れば見るほど逆効果になるのです。ほとんどのクリスチャンが、実はそういう罫にはまっているのではないのでしょうか。

3) 十戒の本質

出エジプトした後、シナイ山で神様がモーセを通して十戒を与えられました。その十戒の内容は、他の神々があってはならない。偶像を作ることだめ、拝むことだめ。主の名をみだりに唱えてはいけない。安息日を徹底的に守りなさいということでした。そのみことばの本質はなんなのでしょうか。あなたがたは、よその人と違って唯一の希望、メシヤ、キリストを待っている民であり、そのキリストが来られる道を備えるために召された契約の民であるということを一瞬たりとも忘れてはいけないという意味なのです。キリスト Only という意味なのです。その次の戒めは、親を敬いなさい。人を殺してはならない。姦淫の罪はダメだ。盗みはダメなんだ。隣の人に偽りの証言などをしてはいけない。他人の所有を欲しがってはいけないという戒めです。その本質はなんなのでしょうか。あなたと今一緒に歩いてるそのすべての人、家族をはじめ、すべての人は、キリストの契約のために召されている契約の共同体ではないのか。それを一瞬たりとも忘れてはいけないよ。キリストなのです。だから大事にきなさいという意味であって、人を殺さないで戒めを守って、人を殺したら戒めを破ったといった単純な話ではありません。これがみことばの本質です。でも自分が罪人だということを心から、中心から素直に認めない限りは、みことばがこのように見えてきません。パリサイ人のようになるしかありません。

4) ヨハネ 1:14

聖書のヨハネ 1:14 にはこう書いてあります。「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた」。この世に来られたキリスト、イエスをことばと言っているということとをぜひ覚えてください。みことばの本質はキリストなのです。みことばの本質は、私たちがどうしようもない罪人だということを示すことなのです。どこを見ても。でも、みことばがありのまま理解できない、そういう風に聞こえないその理由が何かというと、自分は救いが必要な罪人だということとを根本から認めようとしないのです。実はそのヒューマンイズムが人間の罪の一番の本性なのです。悪魔サタンが最後の最後まで握って人間を牛耳るための手段なのです。世の中は学校にいても家庭にいてもどこかのセミナーにいても、いつもそういう話なのです。人は罪人ではない。救いなど必要な存在ではない。だから、あなたが自分を磨いて頑張りなさいと勧められることばかりなのです。学校の教育もそういう内容が根底を流れています。だからレムナントは学校で勉強するとき、キリストの契約を握って御座の祝福を味わう力がなければ流されるわけです。自分が罪人だと認めることが、どれほど大切な祝福なのかということとを改めて確認しましょう。

2. Only キリストの人は、祝福の本質が見えて、エデンの祝福を

それで二番目、この神のみことばの本質が見えてきて、Only キリストになった人は、祝福の本質が見えてくるようになります。今まで祝福だと思っていたこと、幸せだと思っていたこと、それが本物の祝福、本物の幸せではないということに気づくようになるのです。祝福の本質が見えてきて、エデンの祝福を回復するようになります。

1) マルコ 10:6-9 にあるイエス様のメッセージ

イエス様が離婚のお話をしながら、今日の聖書の箇所、マルコ 10:6-9 のところでお話しされた内容はどのような内容なのでしょう。いちばん最初、神様が男と女を造られたときに、親を離れて結婚したら一体となるんだ。だから離婚など、そこには存在しない。それは離婚してはいけないという戒め以前に、創造のときの話に戻されるわけです。つまり、離婚の証書があるない、すべきなのか、してはいけないのかの議論以前に、エデンの祝福の方に戻りなさいよというメッセージなのです。なぜそうならないのでしょうか。エデンの祝福に戻るべきなんだというメッセージを理解しない限りは、律法から自由になりません。神のみことばがなかなか理解できないのです。そうすべきなのか、してはいけないのか、ずっとそのレベルに留まってしまいます。しかし、Only キリストになった人は、祝福の本質が見えてきて、エデンの祝福を回復するようになります。

2) ヨハネ 19:30、ローマ 8:2

Only キリストになったというのはどういう意味なのかというと、ヨハネ 19:30、すべてを完了した。本当にすべての問題が終わったと。ローマ 8:2、死と罪の原理から解放された、すべての問題を終わり、地獄と滅びの不幸の運命から完全に永遠に解放されたことを確認するようになります。それが Only キリストなのです。そうなったときに、今まで自分が求めていた内容、祝福、幸せだと思っていたこと、それに囚われ惑わされることなく、なるほど、すべてが終わったので、完全に解放されたので見えてくるのです。

3) 神のかたちこそ祝福(創世記 1:27)-そこに神の国が

人間の祝福というのは、神のかたち、それこそが祝福なんだ。神のかたちはなんでしょう。ほかの犬や猫のような動物とは違う、創造の神様がともにおられる存在です。ただともにおられるのではなくて、鼻に息を吹き込んで、神様と一体となってひとつになっている存在、それが祝福なのです。健康になるか病気になるかで判断するものではなくて、環境がこうなのかあんなのかによって幸せと不幸が評価される次元を打ち破って、そこから抜け出して、なるほど、祝福の本質はそうではなくて、神がともにおられることこそ祝福なんだ。それをいのちと言います。しかし、残念ながら悪魔サタンの誘惑によって罪を犯して、この神のかたちが壊れ、つまり人間の祝福が完全に壊れて根こそぎ奪われることになりました。それを十字架で死なれたキリストを通してまた回復されるわけです。誰でもイエス・キリストを信じるものはこの神のかたち、祝福の本質を回復します。ヨハネ 1:12「受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」。I コリント 3:16、あなたがたは聖霊が宿る神の神殿であることが分かっていないのか。これが神のかたちを回復したということです。ガラテヤ 2:20、私は十字架とともに死んだ。人に環境に物に幸せを考えていた、求めていた私はもう死んだよ。私の中にキリストが生きてると。これは神のかたちなのです。ヨハネ 5:24、死からいのちに移っているのです。誰でもイエス・キリストを信じて受け入れたものは、神のかたちを回復して、祝福の本質を回復して、エペソ 1:3 のように、刑務所の中にながらも、天にある霊的すべての祝福をいただいたと宣言できる存在になります。これこそが祝福の本質であるということが分かるようになります。なので、そこにエデンの祝福が回復できるように祈るようになるでしょう。自分が神のかたちとして回復できたので、何を食べるか飲むかなど気にしないで、そこに神の国が臨まれるように祈るようになります。私は Only キリスト、すべてが終わって、完全に解放されて、神のかたちになった。親がどうであれ、周りからどう評価されようが、イエス・キリストが私の中に生きて神のかたちなので、私には三位一体の神様が私の内側で働くようになるんだ。誰かの助けなどあってもなくても私には構わない。御座の祝福と栄光と時間空間を超越する神の力が、237 を生かすそのいのちの光が私のいのちに働いて考えとたましいに息が吹き込まれて、私の生活全般においてエデンの祝福が現れて、自分の生涯、教会に対する献身、自分の業に他の人は真似できない神様からの空前絶後の祝福が現れるはずなんだと。それが具体的に臨まれるように祈る特権があるし、それが祝福だということがわかるようになります。だからそれを求めます。何を食べるか飲むか、昇進するかしないかなどを求める人間ではなくて。でもなぜこの祝福の本質が実際には見えてこないのでしょうか。Only キリストになっていないので。引っかかるのがいまだにたくさんあるからなのです。Only キリスト。勉強ができる人でもそうでない人でも構いません。レムナントは熱心に勉強しなきゃいけないでしょうけれども、成績にそんなにこだわらないように。この祝福がないのに成績優秀でトップになったからといって、その人が幸せな

のか成功なのか、とんでもありません。祝福の本質が見えてこないといけません。

4) 征服こそ祝福(創世記 1:28)-そこに神の国のことが

この神のかたちという祝福の本質が見えてきて、そこに神の国が臨まれる、エデンの祝福を回復したときに、自分はこの世を管理人として征服する者として召されているということに気づくようになります。その神の力によって征服していくことこそが祝福です。それが祝福の本質なのです。それで神様はエデンの園において神のかたちに造られた後、彼らを祝福して、創世記 1:28、「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ」というように征服の祝福をおっしゃいました。これがキリスト・イエスにあって全部回復できるわけです。イエス・キリストを信じる人は、マタイ 5:14、世の光と呼ばれるもの。エペソ 1:23、キリストのからだなる教会、つまり、その人を通してキリストが滲み出るようになるのです。ヨハネ 15:5、イエス様がぶどうの木であって、私はその枝。そのぶどうの木からイエスのいのちのエキスが 24 時間流れ出るその枝なのです。I コリント 3:16、あなたがたは神の神殿であることが、I ペテロ 2:9、王である祭司、キリストと同じ名前が付く存在。だから使徒 1:8、聖霊が臨まると力を得て、エルサレムからユダヤ、サマリヤ全土、地の果てにまでイエスの証人となるよと。そういう存在に造り変えられているわけですね。つまり、その人が行くところ、いるところでは、暗闇と呪いと地獄と死の力、悪霊の力が砕かれて逃げ去る、そういう存在なんだ。その結果、いのちを生かす証人としての人生を歩くようになります。これが祝福の本質なのです。武器によって征服する、そういうとんでもない話ではありません。キリストの福音によってです。暗闇の勢力は武器や核によって退治できるものではありません。イエス・キリストの他にはありません。それが私たちの内側にいらっしゃって、私たちはそのキリストのからだなる教会、御子のかたちと言われているもの、キリストの神父と言われているものになっているのです。だからこそ、この祝福の本質が見えて来た時に、そこに神の国のことがなされるように、神の国のことが現れるようにと祈るようになります。これがエデンの祝福なのです。牧会者を生かし、重職者を生かし、レムナントを生かし、教会を生かして、現場を生かして、5000 未伝道種族を生かして、過去、現在、未来をすべてキリストの光によって生かすことができるようにと祈ると、そこに神の国のことが現れるようになるのです。これがエデンの祝福です。イエス様は今離婚してはいけないという単純な話ではなくて、元々の人間の姿、元々の祝福された人間の方に戻らなさいよということです。離婚するべきなのかどうかの議論よりずっと以前のお話ではないのか。本質を回復しなさい。そういうメッセージをおっしゃっているわけです。これが本質の仕組みです。自分が本当に罪人だということを素直に認めるときに、誰かを恨んだり、誰かのせいにしたりすることはおかしいのです。Only キリストになります。みことばが見えてきます。Only キリストになると祝福が何か、それが見えてきます。今まで勘違いしてたんだねと。それでイエス様は山上垂訓において、あなたがたが今現在、幸せ、祝福と思っていることは祝福ではないということをおっしゃったわけです。変えなさいよ。祝福の本質は天の御国なのだよ。神のかたちとして証人として生かされていくということが祝福の本質であり、そこにエデンの祝福、三位一体の神様の働きが、御座の祝福と力と光が時代を生かす証人としての霊力、知力、体力、経済力、人材力の祝福が与えられること、これこそが祝福なのです。これを回復しなさいよとおっしゃっているのです。

この本質の祝福を正しく理解して、今日礼拝に参加されたひとりひとは、自分の中に Only キリストになれないように邪魔する石が何かをよく見極めて、それがどんな理屈であれ、それは高慢であり無知なのです。それを取り除いて、自分はキリストの救いのほかに希望のない罪人ですよ。今まで誰かを恨んで憎んで、誰かのせいにして、あいつのために私の人生はこんなぐちゃぐちゃなんだと思っていたこと、全部悔い改めます。なぜそういうことがあるのでしょうか。自分がどうしようもない罪人だということを認めていないからではないでしょうか。なぜ認めないのでしょうか。それが悪魔サタンをやぐらなのです。サタンはその部分を最後まで握って、「そこは守りなさいよ。そこを譲ると、あなた人間性はパーになるのではないのか」というふうにささやくわけです。それは嘘です。悪魔は最初から嘘、偽りであって偽りの父なのです。罪の中の罪は罪人だと認めないことなのです。認めないといつも誰かのせいなのです。これを心がけましょう。1 週間、じっくりと自分と向き合って、その石を取り除きましょう。

それでそうなると見えます。人がどうのこうの、環境がどうのこうの、過去がどうのこうの、それら

全部振り払って自由になって、たとえこの人間のためにと、その人間が私が望んでいる人にならなければならないからといって、それが祝福ではありません。だから見えないのです。本当の祝福が、Only キリストになって何もかも全部売り払って、本当の祝福がエデンの園の祝福なんだと祝福の本質に目覚めましょう。それでイエス様がおっしゃったように、あなたが気にしているもの、それは知らなくてもいいよ。そこから自由になって御座の祝福が自分の中に現れて、自分の内側が神の国となり、自分の生活のすべてのところに御座の祝福が現れて、伝道のやぐらが立つように、それを祈る信者になりましょう。今言いたいこと、つぶやきたいこと、いろいろあるでしょうけれども、それは根本的に Only キリストでないからなのです。なぜ Only キリストでないかという、いまだに見えるものが多いでしょうし、自分が罪人だとどうしようもないキリストでなければいけない罪人なんだということを素直に心から認めてないので、何か見えてくるものが多いのです。そうするとみことばを聞いても、ユダヤ人のようにみことばを一生懸命守ろうとすればするほど、イエス様に敵対する方向に流されるのです。みことばを見ればいいという単純な話ではありません。今までの歴史がそれを証明しているのではないのでしょうか。カトリックがそうだし、エホバの証人がそうだし、ユダヤ教がそうだし。そのために礼拝のたびに神のみことばの本質を確認して回復するようにしましょう。礼拝を単純に日曜日の行事みたいに思わないで、今日も神のみことばを聞くんだ。みことばの本質を見抜くようにしてくださいと。それができたら皆さんは自信を持って、今現在の皆さんの都合や状況などに振り回されることなく、一つの国、一つの県を胸に抱きましょう。皆さんはそのため召されているから。そのエデンの祝福が皆さんに回復できるようになります。それで現場宣教師という契約。教会を支えていく重職者という契約、レムナントミニストリーという契約を握って、その中から自分のミッションは何なのかを見つけるように祈っていきましょう。必ず神様は、皆さんに語ってくださるでしょう。必ず、神様は今も語っていらっしゃいます。私たちが聞く耳を持たないからだけであって、特に礼拝のときに、メッセージを聞いているときに、皆さんに神様は直接語りかけていらっしゃいます。それを聞こうとしましょう。そのために今日申し上げました内容を自分の中で整理して、みことばの本質、祝福の本質を整理しましょう。皆さん、今まで何を祈って、何を求めていたのでしょうか。それでよろしいのでしょうか。それは祝福ではありません。皆さんが祝福なのです。皆さん、自分自身が祝福なのです。本当は皆さんが右に転ぶと右が生かされて、左に転ぶと左が生かされるように、皆さん自分自身が答えなのです。そこにエデンの祝福を回復できるように、地上のものではなくて上からの御座の祝福が具体的に豊かに現れるように。それに集中しましょう。絞って集中しましょう。なぜなかなか絞って集中しないのでしょうか。そういう祈りができないのでしょうか。なぜ「何を食べるか飲むか」＋御座の祝福を祈るのでしょうか。いまだに祝福の本質が見えてきてないからです。なぜ見えてきてないのでしょうか。言葉では Only キリストなのですが、本当に Only キリストでないからです。他に引かかるものがいまだに多いわけです。死んでも構いませんよ。Only キリスト。いつものようにエルサレムに向かって窓を開けて、御座の祝福を祈っていました。明日死ぬかもしれないのに。明日死ぬかどうか私とは関係ありません。御座の祝福を見上げましょう。勉強がダメだ。もちろん勉強をうまくやれる方法を習得しないといけませんが、うまくいかないにしてもそれ以前に御座の祝福が、その力が皆さん臨まれるように祈りましょう。私が変わらない限りはうまくいっていることが損になります。私が変わらない限り。変わるというのは、世の中で言っているようなそういう変化ではありません。少し慰めのお話を聞いて変わった。どこかの歌手の歌の歌詞を聴いて引きこもりから脱出できた。そういう変化ではありません。サタンのやぐらが砕かれて、神のやぐらが立つということです。いのちの働きです。

最後に今日申し上げましたこれらの内容をすべてをもって、抵抗の祈りに挑戦しましょう。今日申し上げました内容は、帝国の祈りの材料なのです。それで皆さんひとりひとりが癒しの証人となり、皆さんが変わったことを周りから見てわかるように変化が現われて、皆さんの家庭や皆さんの現場、周りに暗闇が砕かれて、いのちの運動が行われることを見ておあかしできるような日が来ることを待ちつつ祈っていきたくと思います。それは難しい努力ではなくて神の約束なのです。皆さんの特権なのです。ただ Only キリストになってないので、それが今延期されているわけです。だから祝福の本質を見抜くことがないまま、いまだに何を食べるか飲むかにしがみついているので、それが延期されているだけです。皆さんは光の戦士です。いのちの戦士です。皆さんが歩きますと、いのちと光が歩くことになります。それがどれほど刻印されて実際、意識するかの戦いなのです。

(祈り)

恵み深い父なる神様。どんな過去であろうが、今現在どういう事情であろうが、周りから何と言われようが、イエス・キリストによって私は神のかたちであり、エデンの祝福の主人公であることを覚えて、今まで引っかかっていたものを振り払って、定刻の祈りを通して Only キリスト、御座の祝福を見上げ、祈ることができるように。それで証人として征服の人生を歩いていけるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン